

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	#####
法人名	株式会社 EPO
事業所名	グループホーム えん かえでユニット
所在地	福岡県北九州市門司区田野浦二丁目9番33号
自己評価作成日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年2月14日	評価結果確定日	令和2年4月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型グループホームとして、地域行事への参加を積極的に行い交流を図っている。独居の方へ台風時などの避難場所としていただいたり、施設で提供している食事と同じものをワンコインでお試しいただいたりしながら、施設を開放している。  
 ・ご利用者には年に一回のバスハイク以外にも、季節にあわせドライブレクを楽しんで頂き、好みに合わせた外食会など個別の支援も行っている。  
 ・住み慣れた環境で最期まで過ごして頂きたいという思いから、看取りケアを行っている。今年度も最期までご支援させていただく機会があり、ご家族から感謝していただくと共に、職員の教育にも繋がった。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議などで理念について再確認している。周知を図る為に各フロアやスタッフルームに貼り出し、常に意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは運営推進会議で情報交換を行い、要望や取り組みなどお互いに協力している。地域行事に積極的に参加したり、災害時の避難場所として施設を開放することで地域とのつながりをもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時介護相談を受け付け、支援が必要となった時の手助けを行っている。認知症への理解については、市民センターでの講義など予定している他、同センターでのヨガ教室などで参加者からの質問などに対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活はスライドにして見ていただいている。地域の方からの意見や地域での困りごとなど、様々な情報交換を行っている。災害時の取り組みなどもお互いに協力出来るように話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会は継続して参加している。事例を検討したり、意見交換する事で情報を得ている。市町村には業務での分からない事を指導いただいたり、相談をする事でその後の支援に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新たな指針にもとづき、委員会を開催している。又、施設内外の研修と共にアンケート調査などを行い職員の意識改善や振り返りを行っている。特に気付かないうちに犯しているスピーチロックについては何度も繰り返し研修し、日常でも気づけば注意、指導できる環境を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い周知を図っている。日常業務の中で気づき等あればすぐに管理者に報告している。小さな事でも職員間で注意、指導出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで研修の機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げながら説明し、不安や疑問点など残さないように努めている。また、途中で変更などあった場合は、速やかに変更内容を知らせ、同意をえるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、苦情・相談を受け付けている。様ざま内検が反映できるように意見箱を設置している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は職員会議や日常の会話から聞くようにしている。その後管理者会議などで話し合い反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課システムを導入することで目標を持ち、スキルアップを目指そうと意欲を持ち仕事に就けるように支援している。面談では管理者との意思の疎通も図れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	各々の状況に合わせ勤務体制を整えることで無理なく職務につけるように配慮している。職員の個性や得意な分野が発揮できる場面づくりをし、できたことに対して衆参することで次回への意欲に繋がるようにしている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同施設だけでなく、系列の障害者施設と合同で人権差別などについての研修や事例検討会を開き取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介助の手順書などで分かりやすく、介助方法の指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会に参加し情報交換と交流の場を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前のアセスメントでご本人の希望する事や、趣味等をうかがってケアプランに反映している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入前には見学に来て頂き、グループホームでの生活を見ていただく。その後のアセスメントでは、遠慮なく要望等が言える環境作りに心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の他事業所間の交流や他職種からの情報を広げ、ご利用者へ様々な方向からのサービス提供ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や趣味活動を支援する事で信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出支援を行い、なるべく多く面会に来て頂けるように声掛けを行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達や馴染みの方の面会は面会は居室でゆっくりと話せるようにしている。また、地域の運動会や行事、お祭りなどに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話がスムーズに進むように職員が仲介に入り、楽しく会話が進むように配慮している。関係性を把握し席順等も決めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方の面会など行き、入院から退院が見込まれない方に状態確認を行いご家族の相談に乗ったりした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりや職員の情報からご本人の意向や希望を汲み取るように努めている。聞き取りが困難な方はこれまでの生活やご家族の意見を元にご本人の想いに添えるように心がけている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にできるだけ細かくアセスメントし、生活歴を把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの情報収集、またはモニタリングやカンファレンス、アセスメントで現状の把握を常に行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンスの他に、日々の業務の中での小さな気付き等反映し計画に活かしている。ご家族には面会時以外にも電話などで意見をうかがうようにしている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや介護記録から支援経過を取り込み介護計画の見直しに活かしている。各職員に声掛け気付きや情報を表出しやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から多職種との情報交換や各月のグループホーム連絡会などに参加し、様々な支援の工夫やサービスなどの情報を得ている。職員の意見にも柔軟に対応しサービスに行けしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで老友会で開かれているカラオケ会などの情報を得たり、町内行事等に積極的に参加させていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所と契約している主治医が3名おり、ご希望があれば伺うようにしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護師には状態報告を行うと共に、褥瘡の処置や爪切りなどお願いしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を伝え、必要品などあれば、ご家族に代わって持って行ったりしている。病院の面会などで情報を交換したり、連携室との連絡のやり取りをこまめに行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについての説明を行い現時点での意向を伺っている。終末期には改めてご本の思いやご家族の意向を伺い、看取りケアを望まれる際には主治医、看護師と連携し支援している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故などの緊急対応マニュアルに沿って対応している。また、主治医や管理者へ報告し指示に従って対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練に水害時の避難訓練を行った。訓練のなかでは職員全員が車椅子で2階の避難階段からの避難を実演してもらった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックOや虐待などの研修の中でどのような声かけが適切か、どのように対応したらよいかなど事例を元にしたリ、グループワークをして分かりやすく業務に取り込めるようにしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の何気ない会話でご本人の希望や思い等聞いている。判断能力の低下がみられるご利用者にも分かりやすく説明し、表情などでくみ取れるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは施設側のペースに合わせてもらっている部分が多い。もう少しゆとりをもって関わられるように業務内容など見直したい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧をされる方などはご家族にご協力して頂き、買い物などお願いしている。洋服なども一方的に選ぶのではなく、ご入居者に選んでいただいたり、ひと声かけて選ぶようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で作っており、皆様楽しみにされている。また、外食会やマルシェを利用され、朝食にパンを買って食べている方もいる。食器拭きの家事活動等を手伝っていただいている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などは毎食チェックしている。水分補給の難しい方などに、ジュースやコーヒーなど飲水しやすい物に代替えするなどして水分量を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い口腔内の保清に努めている。訪問歯科の利用では残存歯の維持や治療の為に指示などを受け清潔の保持の確保を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、ここのパターンに合わせ声掛けや誘導を行う事で失敗なく生活していただくようにしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルの把握と水分補給確保に留意している。腹部マッサージなども行いなるべく、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	中々、一人ひとりのご希望に合わせる事は出来ていません。少しでも個々の希望に添えるように努めます。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着き、安心して休んで頂けるように日中の時間から過ごして頂いている。必ず午睡を取る方もいれば、夕食後はゆっくりテレビを観て休まれたりと、その方に合った生活時間から落ち着いて眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緩下剤や睡眠導入剤などは必要が無ければ中止し、コントロールするようにしている。新しい処方箋を個人カルテに閉じ管理している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月一回のフラワー教室での作品をご自分の居室に飾って楽しんでいる。洗濯を干したり、食器を片付けたりと家事活動を積極的にご自分の役割として手伝って下さったりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って出かける事はできないが、季節毎のドライブは天気などを見て出かけている。また、外食会やバスハイクなども計画を立て出掛けている。行き先は希望に添えるようにしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいるが使う事はない。今後はマルシェなどでご自由に買い物など出来るように支援していきたい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望が有れば電話したりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる環境作りは出来ていない。今後、皆さんで作った作品などを飾っていききたい。共用の空間で不快や混乱を招く事がないように日頃から整理し、安全に過ごして頂いている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で楽しそうに歓談している。殆どの方が日中は、フロアで過ごされており、居室に行かれる様であれば誘導したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具の持ち込みやご家族との思いでの品物などを居室に置いている。これまでの生活の継続に心がけている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に混乱無く生活して頂けるように心がけている。		